

令和7年度 6年生全国学力・学習状況調査 分析

2025.8.22

1. 正答率

①教科別正答率(%)

	国 語	算 数	理科
桃園小 6年生	68.0	54.0	56.0
大分県 6年生	69.0	60.0	60.0
全国 6年生	66.8	58.0	57.1
差(県・全国)	県▼1.0 全国△1.2	県▼6.0 全国▼4.0	県▼4.0 全国▼1.1

②教科の観点別正答率

国語 観点別正答率(%)

	知識・技能	思考・判断・表現
桃園小 6年生	81.4	62.9
大分県 6年生	78.5	64.9
全国 6年生	74.5	63.8
差(県・全国)	県△2.9 全国△6.9	県▼2.0 全国▼0.9

〈知識・技能〉は県・全国を上回った。〈思考・判断・表現〉は、県・全国を下回った。

算数 観点別正答率(%)

	知識・技能	思考・判断・表現
桃園小 6年生	61.9	42.9
大分県 6年生	68.2	48.9
全国 6年生	65.5	48.3
差(県・全国)	県▼6.3 全国▼3.6	県▼6.0 全国▼5.4

▼〈知識・技能〉・〈思考・判断・表現〉ともに、県・全国を下回った。

理科 観点別正答率(%)

	知識・技能	思考・判断・表現
桃園小 6年生	53.2	58.0
大分県 6年生	59.0	60.7
全国 6年生	55.3	58.7
差(県・全国)	県▼5.8 全国▼2.1	県▼2.7 全国▼0.7

▼〈知識・技〉〈思考・判断・表現〉ともに、県・全国を下回った。

2. 問題別調査結果

①国語 学習指導要領の内容 正答率(%)

	知識・技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や 使い方に 関する 事項	情報の扱い 方に 関する 事項	我が国の言 語文化に 関する 事項	A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
桃園小 6年生	84.8	67.1	89.0	64.6	70.7	55.8
大分県 6年生	83.8	63.4	82.9	65.8	70.6	59.8
全国 6年生	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5
差(県・全国)	県△1.0 全国△7.9	県△1.0 全国△7.9	県△6.1 全国△7.8	県▼1.2 全国▼1.7	県△0.1 全国△1.2	県▼4.0 全国▼1.7

【考察】

<知識・技能>

△「言葉の特徴や使い方にに関する事項」は、全国平均より上回った。

漢字を文の中で正しく使う→「好み」全国比△1.3ポイント、「暑い」全国比△14.6ポイント

△「情報の扱い方にに関する事項」は、県・全国ともに平均より上回った。

「情報と情報との関係づけの仕方、語句と語句の関係の表し方を理解し使う」→全国比△4.0ポイント

△「我が国の言語文化に関する事項」は、県・全国ともに平均より上回った。

「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づく」→全国比△7.8ポイント

<思考力・判断力・表現力等>

▼「A 話すこと・聞くこと」は3問中2問、県・全国ともに平均より上回り、1問下回った。

「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する」→全国比▼8.2ポイント

「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる」→全国比△2.6ポイント

「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」→全国比△0.7ポイント

△「B 書くこと」は3問中1問県・全国ともに平均より上回り、2問下回った。

「書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることができる」→全国比▼2.1ポイント

「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」→全国比▼7.4ポイント

「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」→全国比△13.1ポイント

▼「C 読むこと」は4問中1問全国平均より上回ったが、残り3問は下回った。

「内容の大体を捉えることができる」→全国比△0.1ポイント

「文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる」→全国比▼0.1ポイント

「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけることができる」

→問題番号3三(1)全国比▼4.2ポイント、問題番号3三(2)全国比▼2.6ポイント、

・上記のことから<知識・技能>については定着してきているので、今後も更なる定着を目指していきたい。

・<思考力・判断力・表現力等>については、「図表などを文章と関連付けて必要な情報を見つける」や「集めた材

料を分類したり関係づけたりして、文章の構成を考えたり、伝え合う内容を検討したりする」教材や課題への意図的な指導が必要である。

②算数 学習指導要領の領域 正答率(%)

	A 数と計算	B 図形	C 測定	D 変化と関係	E データの活用
桃園小 6 年生	55.8	57.0	49.4	49.6	57.3
大分県 6 年生	63.3	60.0	55.8	57.2	63.0
全国 6 年生	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6
差(県・全国)	県▼7.5 全国▼6.5	県▼3.0 全国△0.8	県▼6.4 全国▼5.4	県▼7.6 全国▼7.9	県▼5.7 全国▼5.3

【考察】

▼「A 数と計算」は8問中8問、県・全国ともに平均より下回った。特に下回った問題は、

「棒グラフから項目の関係を読み取り、何倍かを求める」→全国比▼12.8ポイント

「小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える」→全国比▼7.0ポイント

「数直線上に示された数を分数で書く」→全国比▼8.2ポイント

「分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が単位分数のいくつ分になるか」

→全国比▼3.5ポイント、無回答率19.5%と最も高かった。

▼「B 図形」は、4問中2問、県・全国ともに平均より下回った。

「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができる」→全国比▼1.0ポイント

「五角形の面積を求めるために、五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形を求める」

→全国比▼2.9ポイント

▼「C 測定」は、2問中2問、県・全国ともに平均より下回った。

「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる」

→全国比▼4.8ポイント

「はかりの目盛りを読む」→全国比▼6.0ポイント

▼「D 変化と関係」は、3問中3問が県・全国ともに平均を下回った。

「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができる」

→全国比▼6.0ポイント、無回答率4.9%

「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる」

→全国比▼4.8ポイント

「10%増量の意味を解釈し、増量後の量が前の何倍になっているかを表す」

→全国比▼12.9ポイント、無回答率6.1%

▼「E データの活用」は、5問中4問が県・全国ともに平均を下回った。

「棒グラフから項目の関係を読み取り、何倍かを求める」→全国比▼12.8ポイント

「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を記述できる」

→全国比▼4.2ポイント

「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができる」

→全国比▼6.0ポイント、無回答率4.9%

「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる」
→全国比▼4.8ポイント

- ・上記のことから、すべての領域において、既習事項を押さえながらの授業展開や課題の取り組みなどの改善を
なくてはならない特に、小数や分数の計算や数直線やグラフの読み取りなどの力つけていく必要がある。

③理科 学習指導要領の区分・領域 正答率(%)

	A「エネルギー」を 柱とする領域	A「粒子」を 柱とする領域	B「生命」を 柱とする領域	B「地球」を 柱とする領域
桃園小6年生	49.4	51.6	46.0	63.8
大分県6年生	51.8	52.7	55.1	69.2
全国6年生	46.7	51.4	52.0	66.7
差(県・全国)	県▼2.4 全国△2.7	県▼1.1 全国△0.2	県▼9.1 全国▼6.0	県▼5.4 全国▼2.9

【考察】

A「エネルギー」を柱とする領域は、4問中3問が全国平均を上回っている。

「電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができる」のみが全国比▼2.9ポイント

A「粒子」を柱とする領域では6問中4問が全国平均を上回り、2問が下回った。

「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているか」が全国比▼9.3ポイントと最も低く、次いで、「水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているか」が全国比▼3.8ポイントだった。

B「生命」を柱とする領域では4問中1問が全国平均を上回り、3問が下回った。

「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が見についているか」→全国比▼15.1ポイント

「発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決方法を発想し、表現することができる」

→全国比▼7.1ポイント

「種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現することができる」

→全国比▼4.3ポイント

B「地球」を柱とする領域では6問中2問が全国平均を上回り、4問が下回った。

「土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、土と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現することができる」→全国比▼1.0ポイント

「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているか」

→全国比▼9.3ポイント

「水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているか」

→全国比▼3.8ポイント

「氷が解けてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているか」→全国比▼6.0ポイント

- ・上記のことから、観点別正答率、領域別正答率ともに、県平均を下回っており、授業改善や補充学習を行う必

要がある。〈知識・技能〉においては、理科学語の確実な理解と器具の正確な使い方を習得しなければならない。〈思考・判断・表現力〉においては、問題に対して視点をもって実験を発想したり、結果や理由を予想したり、分析したりすることが苦手な児童が多いので、授業で分析したり予想したりする活動を取り入れていくことが必要である。

3. 質問紙調査の結果から

(数字は、質問に対しての肯定率を％で表したもの。全国平均と差が大きい項目など)

番号	質問事項	桃園小(%)	全国(%)
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	50.7	38.9
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	66.7	55.6
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	39.1	55.3
21	学校の授業時間以外に、普段(月から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。	30分以上 47.8	30分以上 31.1
24	読書は好きですか(当てはまる+どちらかと言えば当てはまる)	85.5	69.7
28	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(ほぼ毎日)	27.5	46.7
29-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか。 (とてもそう思う+そう思う)	53.6	76.7
32	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか(当てはまる+どちらかと言えば当てはまる)	89.8	80.3
33	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか(当てはまる+どちらかと言えば当てはまる)	88.4	77.8
44	国語の勉強は得意ですか(当てはまる+どちらかと言えば当てはまる)	75.3	61.4
45	国語の勉強は好きですか(当てはまる+どちらかと言えば当てはまる)	75.3	58.3
46	国語の授業内容はよくわかりますか(当てはまる+どちらかと言えば当てはまる)	95.6	82.8
65	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか(当てはまる+どちらかと言えば当てはまる)	76.8	63.1
71	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか(している+どちらかといえばしている)	91.3	80
算2	解答時間は十分でしたか(時間が余った)	39.8	54.7

4. 学力向上に向けた重点的な取組

(1)国語

- ・引き続き、読書活動・音読練習・漢字の書き取りを繰り返し練習させ、基本的な言語能力を上げていく。
- ・文章全体の構成や展開、段落相互の関係を捉えたり、文章と図表を結び付けて読み取ったり、自分の考えを書いたりする授業展開をしたり、問題に取り組ませたりする。

(2)算数

- ・基礎的な問題に繰り返し取り組ませる（特に、小数、分数の計算）。
- ・個に応じた指導として、ICTのドリルを授業や宿題で取り組ませる。
- ・苦手な領域（割合など）の復習や長文問題に慣れるためのプリント学習に取り組ませる。

(3)理科

- ・理科用語の確実な理解と器具の正確な使い方の習得をめざす。（家庭学習・プリント学習・反復学習）
- ・授業中に、実験の結果を見通して考えることや、実験の結果に対して視点をもって分析する活動を取り入れる。

(4)質問紙調査

- ・質問6「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に6割の子どもが実感できていないと回答していた。教師の声掛けを積極的に変えていく。
- ・質問28, 29-4で、ICT機器の使用頻度やプレゼンテーションの作成について全国に比べて低い回答だったので、ICTのドリルや家庭学習での活用を増やし、プレゼンテーションの作成を授業で取り組んでいく。
- ・質問算数「解答時間は十分でしたか」に時間が足りなかった子どもが6割いた。算数の問題に「正確に早く」回答することをめざし、問題に取り組ませていく。
- ・質問2, 3, 71で起床・就寝時刻や健康に過ごすなどの質問で全国より高い数値で肯定的な回答が見られた。生活リズムが整い、健康的な生活ができている子が多いと考えられる。引き続き、生活リズムが崩れていないかを見守っていく。
- ・質問 32, 33で自分から取り組むなどに肯定的な回答が多かった。また、質問 44, 45, 46, 65 で国語や理科に肯定的な回答が多かった。子どもたちは前向きに取り組もうとしているので、その意欲を生かすような授業展開や学級経営をしていく。
- ・質問 21, 24 で、読書をよくしているという子どもが多かった。時間だけでなく、内容についても学級で話題にし、読書の幅を広げていきたい。